

しょう しゃ せいど
障がい者によるまちづくりサポーター制度

だい き かつどうほうこくしょ
第8期活動報告書

かつどう ひと きょうせいしゃかい めざ ほか
(活動テーマ：人にやさしい共生社会を目指して 他)



れいわ ねん ねん がつ
令和6年(2024年)5月

さっぽろしょう しゃ いちどう
札幌市障がい者によるまちづくりサポーター 一同

もくじ 目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 ページ

サポーターの活動状況^{かつどうじょうきょう}・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 ページ

1 会議^{かいぎ}

2 意見交換会^{いけんこうかんかい}

3 講義^{こうぎ}

4 アンケート協力^{きょうりょく}

5 活動報告^{かつどうほうこく}

活動内容^{かつどうないよう}・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 ページ

1 人にやさしい共生社会^{ひと きょうせいしゃかい}を目指して(メインテーマ)

2 行政の情報保障^{ぎょうせい じょうほうほしょう}(サブテーマ)

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34 ページ

サポーター名簿^{めいぼ}・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36 ページ

はじめに

障がい者によるまちづくりサポーター制度は、障がいの
ある方が普段思っていることや考えていることを、同じ目線
で理解や応援することができる障がいのある方に、聞き取り
役や取りまとめ役となる「サポーター」になり、障がいのあ
る方の意見を市政に反映させていこうとするものです。

私たちが第8期11名は、活動にあたり、まずメインテーマ
を『人にやさしい共生社会を目指して』に決めました。話し
合いの中で「共存」「共生社会」「優しさを広める」「橋渡し」
という想いを大切にしたいとの声が挙がってきたからです。
さらに、これまで通り、より取り組む課題を絞り込んで「行政
の情報保障」というサブテーマを設けました。理由は、①障
がいのために情報を外から取り込むことが難しい人が多い
のではないかと②行政からの積極的な情報発信を必要として
いる障がい当事者が多いのではないかと、との共通した疑問
が生じ、それならば、我々「まちづくりサポーター」がそう
いった声を取りまとめれば良い、という結論に至ったからで
す。

今回の活動開始時期は、新型コロナウイルス感染症流行
の真っ只中でもあり、当初はオンラインで会議を進めざるを
えない部分もありましたが、会議の場に足を運ぶことが難し
いメンバーもいることから、感染状況が落ち着いた後も
会議は会場参加とオンライン参加のハイブリッド形態で進
めました。この形態はそれぞれの障がいや体調に配慮した
社会参加となるよう今後も続けてほしいです。

わたし さっぽろし く しょう とうじしゃ
私たちは札幌市のあちこちで暮らしている障がい当事者
こえ おも ひろ じっし き こうほう
の声や想いを拾い上げるためアンケートの実施を決め、広報
さっぽろ さっぽろしこうしき かくだんたいさま よ
さっぽろ、札幌市公式ホームページ、各団体様で呼びかけて
かいとう しゅうしゅう かいとう ぶんせき こんなん
回答を収集できました。しかし、回答の分析は、かなり困難
さぎょう いってい ふたん しゅうちゅう
な作業のため、一定のメンバーに負担が集中してしまった
のですが、なんとか提言として今回の報告書にまとめられま
ていげん こんかい ほうこくしょ
した。

かいぎ たいへん ゆう いぎ かつどう
この「まちづくりサポーター」会議は、大変有意義な活動
おも しょう さっぽろし みん
だと思えます。なぜなら、さまざまな障がいがある札幌市民
かだい たい はな あ ば も つうじょう
がひとつの課題に対して話し合いの場を持つことは通常の
せいかつ たいけん じぶん こと ほか
生活では体験できないからです。そして、自分と異なる他の
しょう りかい じぶん しょう りょういき かたよ
障がいへの理解や、自分の障がい領域に偏らないよう
はいりょ たいせつ まな
配慮することなど、とても大切なことを学ばせてもらえたか
らです。

だいひょう わたし き
とりわけ、代表として私がいつも気をつけてきたことは、
ひろ あ かく おも ちやくち
拾い上げた各メンバーの思いをどこに着地させるか、どうや
かく きょうかん ちやくちてん
って各メンバーが共感できる着地点にできるかということ
わたし ちからぶそく かく すこ たよ
ですが、私の力不足もあり、各メンバーには少し頼りがい
だいひょう
のない代表だったかもしれません。

わたくしじしん しかくしょう み じょうたい
私自身には視覚障がいがあり、ほとんど見えない状態で
す。ハイブリッド形態のため、会議の場に足を運ばなくても
けいたい かいぎ ば あし はこ
進行はできましたが、それ以前に、資料の読み込みなどの
しんこう いぜん しりょう よ こ
準備を始め、会議中も音声の出るパソコンで資料を確認しつ
じゅんぴ はじ かいぎちゅう おんせい で しりょう かくにん
つ、同時に各メンバーの発言にも気を配りながら進行させる
どうじ かく はつげん き くば しんこう
のは、なかなかの大変さがありました。もちろん、障がい
こと たいへん こと しょう
異なれば、大変さも異なるので、メンバーごとに苦勞はあっ
くろう

たと想像そうぞうします。そのため、個人的こじんてきには、各かくメンバーの特性とくせいや「まちづくりサポーター」の活動全体かつどうぜんたいの状況じょうきょうを的確てきかくに判断はんだんし、専門せんもんてき的な立場たちばから助言じょげんをもらえるような有識者ゆうしきしやがオブザーバーてき的かいぎにかつどういると、会議かいぎも活動かつどうそのものも、もっとスムーズゆうしきしやに進すすんだように思います。これは来期らいき以降いこうの課題かだいとしたいところすすです。

とはいえ、こうして無事ぶじに任期にんきを終おえることができたのも事務局じむきょくの皆みなさまやメンバーかたがたの方な々、そして何なんよりもアンケートきょうりょくに協力かたがたいただいた方おも々のおかげだと思おもっております。どんな障しょうがいもを持っていても、住すみやすい札幌さっぽろになることを願ねがい、巻頭かんとうの挨拶あいさつとさせていただきます。

だい き さっぽろししやう しゃ だいひょう
第8期札幌市障がい者によるまちづくりサポーター代表
やまだ ひでお
山田 英雄

かつどうじょうきょう
サポーターの活動状況

1 かいぎ
会議

だい かい かいぎ
第1回（オンライン会議）

れいわ ねん ねん がつ にち
令和3年（2021年）7月19日

だいひょう ふくだいひょう き かつどう いけんこうかん
代表・副代表を決め、活動のテーマについて意見交換
おこな
を行いました。

だい かい かいぎ
第2回（オンライン会議）

れいわ ねん ねん がつ にち
令和3年（2021年）10月15日

かつどう いけんこうかん おこな
活動のテーマについて意見交換を行いました。

だい かい かいぎ
第3回（オンライン会議）

れいわ ねん ねん がつ にち
令和4年（2022年）2月21日

だい かい かいぎ いけんちょうしゅ
第2回会議に意見聴取したメインテーマとサブテーマ
いちらん きぼう
の一覧から、希望するメインテーマ（1つ）とサブテーマ
いけんこうかん かつどう
（2つ）について、意見交換を行いました。活動テーマに
ひと きょうせいしゃかい めざ
ついて、メインテーマが「人にやさしい共生社会を目指
かくしょう はいりょ じょうほうほしょう
して」サブテーマが「各障がい配慮した情報保障」と
さいがいじ そな かんが けつてい
「災害時の備えについて考える」に決定しました。

だい かい かいぎ
第4回（ハイブリッド会議）

れいわ ねん ねん がつ にち
令和4年（2022年）7月13日

だい かい かい ぎ かく かん じょうほうほししょう
第3回会議に各サポーターが感じている「情報保障が
ひつよう ばめん かい さいが い とき こま のぞ
必要となる場面や課題」と「災害の時に困ることや、望ま
しい配慮、受けて助かったサポートの実体験」を集約
し、まとめた資料を事前に送付。それについて、意見交換
をおこな
を行いました。

だい かい かい ぎ
第5回（ハイブリッド会議）

れい わ ねん ねん がつ にち
令和4年（2022年）10月12日

かくしやう はいりよ じょうほうほししょう さいが い
サブテーマ「各障がい配慮した情報保障」と「災害
じ そな かんが かい せいり おこな
時に備えについて考える」のそれぞれ課題整理を行って
きたが、2つのテーマについての課題が重く、1つのテー
マに絞ることのご意見があり、そのことについて意見交換
をおこな とうごう ぎやうせい
を行いました。2つのテーマを1つに統合させ、「行政の
じょうほうほしやう と く けってい
情報保障」というテーマに取り組みことを決定した。

だい かい かい ぎ
第6回（ハイブリッド会議）

れい わ ねん ねん がつ にち
令和4年（2022年）12月14日

しな い す しやう かた いけん き
市内に住む障がいのある方への意見を聞きだすためのヒ
ほうほう いけんこうかん おこな
アリング方法について、意見交換を行いました。

だい かい かい ぎ
第7回（ハイブリッド会議）

れい わ ねん ねん がつ にち
令和5年（2023年）2月15日

こうもく いけんこうかん おこな
アンケート項目について、意見交換を行いました。

だい かい かい ぎ
第8回（ハイブリッド会議）

れい わ ねん ねん がつ にち
令和5年（2023年）6月21日

さいど こうもく いけんこうかん おこな
再度アンケート項目について、意見交換を行いまし
た。また、アンケートのスケジュールについて、意見交換
をおこな
を行いました。

だい かい かいぎ
第9回（ハイブリッド会議）
れい わ ねん ねん がつ にち
令和5年（2023年）10月11日

アンケート調査の結果について、意見交換を行いました。
また、活動報告書の構成について、意見交換を行いました。

だい かい かいぎ
第10回（ハイブリッド会議）
れい わ ねん ねん がつ にち
令和5年（2023年）12月20日

第9回でご意見をいただいたことを踏まえ、改めてアンケート調査の結果を報告いたしました。
また、活動報告書の構成について、再度意見交換を行いました。

だい かい かいぎ
第11回（ハイブリッド会議）
れい わ ねん ねん がつ にち
令和6年（2024年）3月13日

第10回でご意見をいただいたことを踏まえ、改めてアンケート調査の結果を報告いたしました

だい かい かいぎ
第12回（ハイブリッド会議）
れい わ ねん ねん がつ にち
令和6年（2024年）5月29日

第8期活動報告書について最終確認を行いました。また、活動の振り返りを行いました。

2 意見交換会

● 令和4年（2022年）2月21日

「札幌市公式ホームページの使い心地について」を、札幌市総務局広報課と意見交換を行いました。

● 令和4年（2022年）10月12日

「実際に消費者トラブルに遭ったことや困ったこと、障がいのある方を消費者トラブルから守るためにどのようなことが必要か」「普段の生活で、障がいがあることに加えて、女性であること、あるいは男性であることで生活がしにくいと感じること」を、札幌市市民文化局消費生活課・札幌市市民文化局男女共同参画課と意見交換を行いました。

3 アンケート協力

● 令和5年（2023年）2月

札幌市総務局広報課のアンケート（ホームページの使い心地について）に協力しました。

4 活動報告

● 令和6年（2024年）6月26日

活動報告書を札幌市自立支援協議会に提出

● 令和6年（2024年）6月26日

活動報告書を札幌市に提出

かつどうないよう 活動内容

今回の活動のテーマについてサポーターで話し合いました。

サポーターのみなさんの意見から、今回の活動では

メインテーマ 「人にやさしい共生社会を目指して」
サブテーマ 「行政の情報保障」

に決めて3年間活動をしていくことにしました。

●メインテーマ 「人にやさしい共生社会を目指して」●

このメインテーマを選ぶに至ったのは今までの「まちづくりサポーター」議論を参考にしていくなかで自然とこのテーマを選択していきました。障がい者として生活上の困難を抱える生活の中で障がいであることで人としての孤立感や疎外感を感じることなく一人として認められた存在とし

てこの^{しゃかい}社会と^{きょうせい}共生していくにはどうしたらいいのか^{かんが}考えて
まいりました。

○ サブテーマ 「^{ぎょうせい}行政の^{じょうほうほしょう}情報保障」 ○

^{わたし}私^{だい}たち^き第8期^{ひと}まちづくりサポーターは「人にやさしい

^{きょうせいしゃかい}共生社会^{めざ}を目指して」を^{かつどう}活動テーマとし、このテーマをさ

らに「^{ぎょうせい}行政の^{じょうほうほしょう}情報保障」について、^{しょう}障がいのある方への^{かた}

^{りかい}理解^{かんれん}に関連する^{かだい}課題^{かいけつさく}や^{いけん}解決策の^だ意見^あを出し合ってきました
た。

わたしたちまちづくりサポーター^{だい}第8期^きにおいてこのテー

マについて^{とうぎ}討議^{かさ}を重ねていくなか、^{しょう}障がいと^む向き合^あって

^{せいかつ}生活^{じょうほう}していくための^{ふそく}情報の^{たと}不足^{ちょうかくしょう}でした。例えば「^{ちょうかくしょう}聴覚障

^{しゃ}がい者が^{くやくしょ}区役所に^{そうだん}相談のため^む向かったときに^{しゅわつうやくしゃ}手話通訳者が

いついるわからない」ことや「^{せいしんしっかん}精神疾患により^{せいかつ}生活の^{かね}お金

がなく^{ちりょう}治療が^{こんなん}困難で^{こま}困って^{きぼう}て希望を^{うしな}失った」ことなど^{いま}今ま

でメンバーが^{けいけん}経験してきたことが^{ぎろん}議論に^あ上がりました。

ひと きょうせいしゃかい む さっぽろしふく おお
「人にやさしい共生社会」に向かうべく札幌市含め多くの

ぎょうせいきかん しょう しゃ
行政機関などからたくさん障がい者をサポートするための

しさく しさくいつかん やくはんせいきまえ
施策がされています。こうした施策一環は約半世紀前より

せいび ふくし せいかつふじょ ふく
整備されてきました。しかしながら福祉や生活扶助を含め

しゃかいほしょう りょう たい ただ じょうほう ふそく
た社会保障を利用することに対し正しい情報の不足による

ていこうかん じょうほうていきょう ふそく ふくし う きかい
抵抗感や情報提供の不足により福祉サービスを受ける機会

そうしつ かだい
の喪失など課題があります。

わたしたち のぞ きょうせいしゃかい
このようなことから私達が望む「共生社会」のためにす

ここじん ただ じょうほう かぶそく も え
べての個人が正しい情報を過不足なく持ち得ていること

たいせつ ひつようじょうけん かんが
がとても大切な必要条件であると考えるこのようなテーマに
しました。

けいいい さっぽろしな い すま しょう かた
このような経緯で札幌市内にお住いの障がいのある方を

たいしょう ぎょうせい じょうほうはっしん たよう しゅほう おこな ひつようせい かん
対象に、行政の情報発信を多様な手法で行う必要性に關す

ちようさ れいわ ねん がつ がつ じっし
るアンケート調査を令和5年7月から8月にかけて、実施い

けっか ほうこく
たしまして、この結果を報告いたします。

はじめに

生活上の困難において、こういった要素が困難さの元になっているかをまとめました。

そこで居住形態/職業/障がい種別の各面でアンケートを元にまとめてみました。

1. 生活上の困難について回答傾向

1-1. 居住形態(一人暮らし否かなど)での生活上の困難はあるのか

居住形態別のパーセンテージ

- 一人暮らし: 33.91%
- 家族と同居: 62.07%
- グループホーム: 4.02%

居住別割合による比重を考慮した生活上の困難についての

傾向

- 一人暮らし:
 - 不満: 5.17%

• やや^{ふまん}不満： 15.52%

• やや^{まんぞく}満足： 12.64%

• ^{まんぞく}満足： 0.57%

• ^{かぞく}家族と^{どうきよ}同居：

• ^{ふまん}不満： 13.22%

• やや^{ふまん}不満： 22.41%

• やや^{まんぞく}満足： 20.69%

• ^{まんぞく}満足： 5.75%

• グループホーム：

• ^{ふまん}不満： 1.15%

• やや^{ふまん}不満： 1.15%

• やや^{まんぞく}満足： 1.72%

• ^{まんぞく}満足： 0.00%

けいこう
傾向

^{かぞく}家族と^{どうきよ}同居している人々が「^{ふまん}不満」と「^{ふまん}やや不満」を^{かん}感じ

ている割合が他の居住形態に比べて高いことがわかります。

また、グループホームに住んでいる人々は「満足」という

回答がないことが見て取れます。一人暮らしの人々は「やや

満足」の割合が比較的高いですが、「満足」と答えた人は少ないことがわかります。

居住形態による生活の困難は種類によって違いはあるも

のの大きな違いはないと言えます。

1-2. 職業と生活上の困難さについて

「3. 職業」各職業別パーセンテージ

● 一般就労： 26.44% ※雇用契約を伴う就労全般

● 中間的就労： 14.37%

※雇用契約を伴わない作業所への通所またボランティア

アなど

● 学生： 8.62%

● 無職： 47.70%

- ^{じえいぎょう}自営業： 2.87%

職業別割合による^{ひじゅう}比重を^{こうりょ}考慮した^{せいかつじょう}生活上の^{こんなん}困難について

^{けいこう}の傾向

- ^{いっぱんしゅうろう}一般就労：

- ^{ふまん}不満： 2.87%
- やや^{ふまん}不満： 10.92%
- やや^{まんぞく}満足： 11.49%
- ^{まんぞく}満足： 1.15%

- ^{ちゅうかんとくしゅうろう}中間的就労：

- ^{ふまん}不満： 2.87%
- やや^{ふまん}不満： 3.45%
- やや^{まんぞく}満足： 6.90%
- ^{まんぞく}満足： 1.15%

- ^{がくせい}学生：

- ^{ふまん}不満： 0.57%
- やや^{ふまん}不満： 5.75%
- やや^{まんぞく}満足： 1.72%
- ^{まんぞく}満足： 0.57%

- ^{むしよく}無職：

- ^{ふまん}不満： 13.22%
- やや^{ふまん}不満： 17.82%
- やや^{まんぞく}満足： 13.22%
- ^{まんぞく}満足： 3.45%

- ^{じえいぎょう}自営業：

- ^{ふまん}不満： 0.00%
- やや^{ふまん}不満： 1.15%
- やや^{まんぞく}満足： 1.72%
- ^{まんぞく}満足： 0.00%

傾向

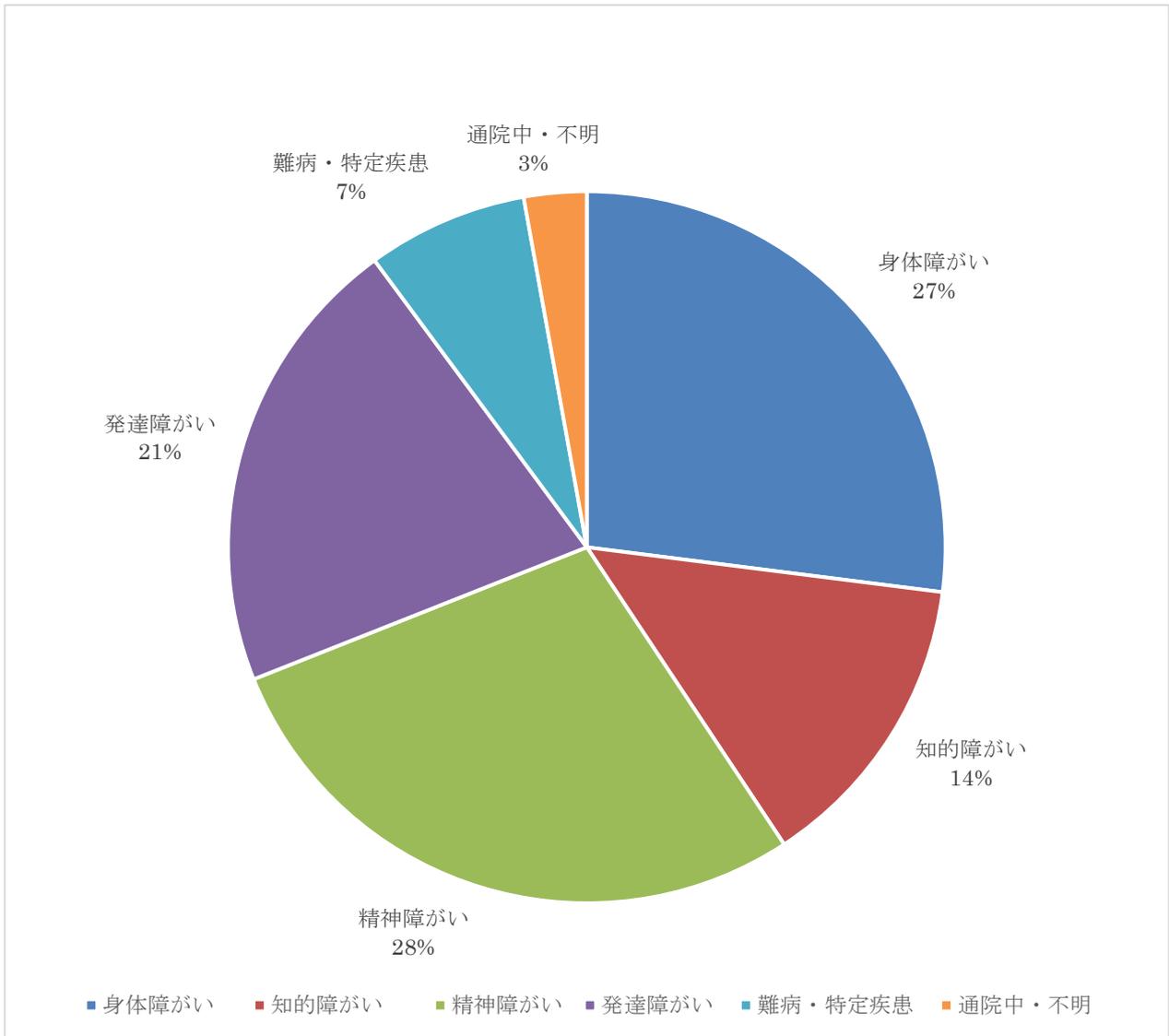
無職の方が「不満」と「やや不満」を感じている割合が他の職業に比べて高いことがわかります。また、一般就労している人々は「やや満足」の割合が比較的高いことが見て取れます。

所得の多い少ないで考えると就労されている方のほうが生活上の困難は少ないと言えますが、札幌市からの情報提供のあり方について問う論点とは違うようです。

1-3. 障がい種別と生活上の困難さについて

障がいの種類別割合

※複数選択であるため、自認している障がい種をカウントしたものになります。



しんたいしょう

身体障がい : n=67

ちてきしょう

知的障がい : n=34

せいしんしょう

精神障がい : n=70

はったつしょう

発達障がい : n=52

なんびょう とくていしっかん

難病・特定疾患 : n=18

つういんちゆう ふめい

通院中・不明 : n=7

そうけい

総計 : n=248

かくしょう べつ せいかつじょう こんなん かいとうぶんぷ
各障がい別の生活上の困難さの回答分布

しょう しゅべつ 障がい種別	ふまん 不満	ふまん やや不満	まんぞく まんぞく やや満足 満足	
しんたいしょう 身体障がい	20.31	37.5	29.69	12.5
ちてきしょう 知的障がい	20.59	38.24	38.24	2.94
せいしんしょう 精神障がい	28.57	32.86	35.71	2.86
はったつしょう 発達障がい	11.54	48.08	38.46	1.92
なんびょう とくていしっぺい 難病・特定疾病	38.89	33.33	16.67	11.11
つういんちゅうとう りゆう 通院中等の理由				
により ^{ふめい} 不明	42.86	28.57	28.57	0

けいこう
傾向

そうごうてき ひょうか い か けいこう み
総合的に評価すると、以下のような傾向が見られます。

1. 身体障がい：「やや不満」が最も高い割合を占めてい

ますが、「やや満足」と「満足」の割合も合わせて約

はんすうちか たっ せいかつじょう こんなん たい ひかくてき
半数近くに達しており、生活上の困難に対して比較的
バランスの取れた見方をしている人が多いです。

2. 知的障がい：「やや不満」が最も高い割合を占めてい
ますが、「やや満足」と「満足」の割合も一定程度あ
り、全体的にはバランスの取れた感じ方をしている人
が多いです。

3. 精神障がい：「やや不満」が最も高い割合を占めてお
り、「不満」の割合も高いことから、このグループは
生活上の困難に対して特に厳しい状況にあると考え
られます。

4. 発達障がい：「やや不満」が最も高い割合を占めてい
ますが、「やや満足」の割合も高く、生活上の困難に対
して比較的ポジティブな見方をしている人も多いで
す。

5. 難病・特定疾患：「不満」と「やや不満」が高い割合

を占めており、生活上の困難に対する不満が顕著に見られます。

6. 通院中などの理由によりわからない：「不満」の割合

が最も高く、全体の約半数が不満を感じていることが

わかります。また、「満足」と回答した人はいないこと

から、このグループは生活上の困難に対して特に厳し

い状況にあると考えられます。

これらの結果から、障がいの種別によって生活上の困難

に対する感じ方に明確な違いがあることがわかります。特に、

精神障がいや通院中などの理由で障がいの種別が不明な

人々は生活上の困難に対して高い不満を抱えていることが

示されています。一方で、身体障がいや知的障がい、発達

障がいを持つ人々は比較的バランスの取れた見方をしてい

けいこう
る傾向があります。

せいかつじょう こんなん
生活上の困難からみたまめ

せいかつじょう こんなん かん ど あ きょじゅう しょくぎょう
生活上の困難さを感じる度合いは居住や職業によって

えいきょう う どうじしゃ かか しょう しゅべつ
影響を受けるよりも当事者が抱える障がいの種別によって、

おお さ い で
大きく差異が出ることがここまでわかりました。

いじょう てん つぎ こうもく しょう べつ さっぽろし
以上の点から次の項目では障がい別にどういった札幌市

じょうほうていきょう ていじ おも
から情報提供がほしいのか提示していきたいと思います。

2. 障がい者と札幌市による情報提供ニーズの傾向

2-1 障がい種別の情報提供へのニーズ傾向

アンケートの質問において障がい別に札幌市から

じょうほうていきょう ゆうせん こうもく だいいちゆうせん だいさん
情報提供を優先してほしい項目を第一優先から第三

ゆうせん けいこう おのおの ひょう ちゅうもく
優先まで傾向をまとめました。各々の表において、注目

かしょ いろ ちゃくしょく
してほしい箇所についてオレンジ色で着色しています。

こうもく けいこう あ
項目1-3 でまとめた傾向と合わせてまとめています。

○ ^{しんたいしょう} **身体障がい**

第一優先	提供希望の情報					
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計	
必要	13.43%	17.91%	19.40%	5.97%	56.72%	
基本必要	10.45%	8.96%	11.94%	4.48%	35.82%	
原則不要	2.99%	0.00%	2.99%	0.00%	5.97%	
不要	0.00%	0.00%	1.49%	0.00%	1.49%	
総計	26.87%	26.87%	35.82%	10.45%	100.00%	
第二優先	提供希望の情報					
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計	
必要	19.40%	14.93%	11.94%	10.45%	56.72%	
基本必要	8.96%	16.42%	5.97%	4.48%	35.82%	
原則不要	0.00%	4.48%	0.00%	1.49%	5.97%	
不要	1.49%	0.00%	0.00%	0.00%	1.49%	
総計	29.85%	35.82%	17.91%	16.42%	100.00%	
第三優先	提供希望の情報					
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計	
必要	7.46%	19.40%	11.94%	8.96%	47.76%	
基本必要	5.97%	5.97%	13.43%	17.91%	43.28%	
原則不要	0.00%	4.48%	0.00%	4.48%	8.96%	
不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
総計	13.43%	29.85%	25.37%	31.34%	100.00%	

傾向

^{しんたいしょう} **身体障がい**による^{しょうがいとくせい} **障害特性**から^{かんが} **鑑みると**ニーズとして
^{せいかつ} **「生活での困りごと**を^{こま} **関する**^{かん} **福祉情報**」が^{わりあい} **割合が多い**ように
^{おも} **思うが**、^{じっさい} **実際は**そうではなく。^{さっぽろし} **札幌市**から^{じょうほうていきょう} **ほしい情報提供**と
^{いりょう} **して「医療／福祉**の利用に^{ふくし} **関わる**^{りょう} **支援情報**」「^{しえんじょうほう} **就労**や^{しゅうろう} **家計**へ
^{かん} **のサポート**に関する^{じょうほう} **情報**」を^{のぞ} **望む**^{けいこう} **傾向**が^{たか} **高い**。これは^{いりょう} **医療**／
^{ふくし} **福祉**の^う **サポート**を受けながら^{かけい} **家計**や^{しゅうろう} **就労**といった^{けいざいてき} **経済的**

ことがら 事柄とのバランスについてニーズが高^{たか}いように思^{おも}われる

けいこう 傾向である。

ちてきしょう 知的障^{がい}

第一優先	提供希望の情報				総計
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	
必要	35.29%	20.59%	8.82%	8.82%	73.53%
基本必要	5.88%	2.94%	11.76%	0.00%	20.59%
原則不要	2.94%	0.00%	0.00%	0.00%	2.94%
不要	0.00%	2.94%	0.00%	0.00%	2.94%
総計	44.12%	26.47%	20.59%	8.82%	100.00%
第二優先	提供希望の情報				総計
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	
必要	14.71%	20.59%	17.65%	14.71%	67.65%
基本必要	2.94%	17.65%	8.82%	2.94%	32.35%
原則不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	17.65%	38.24%	26.47%	17.65%	100.00%
第三優先	提供希望の情報				総計
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	
必要	8.82%	17.65%	11.76%	5.88%	44.12%
基本必要	8.82%	11.76%	14.71%	8.82%	44.12%
原則不要	0.00%	5.88%	0.00%	0.00%	5.88%
不要	0.00%	2.94%	0.00%	2.94%	5.88%
総計	17.65%	38.24%	26.47%	17.65%	100.00%

けいこう 傾向

いりょう ふくし りょう かん しえんじょうほう せいかつ こま
 「医療／福祉の利用に関わる支援情報」「生活での困りごと
 かん ふくしじょうほう たいへん たか まえ こうもく
 に関する福祉情報」ともに大変ニーズが高い。前の項目の
 せいかつじょう こんなん たい ふまん わりあい ひかくたか
 「生活上の困難」に対する不満である割合が比較高いことも
 ふ かんが つういん つうしょ じりつ せいかつ かだい
 踏まえ考えると、通院/通所と自立した生活への課題といっ
 ちにじょう こんなん う ぼ けいこう
 た日常においての困難さが浮き彫りになった傾向になった

おも と思われる。 普段の生活において 困りごと にはあるが、 どう

かいけつ 解決 しているのか 情報が不足 している 可能性 がある。

○ **精神障がい**

第一優先	提供希望の情報				
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計
必要	8.57%	18.57%	40.00%	11.43%	78.57%
基本必要	7.14%	5.71%	8.57%	0.00%	21.43%
原則不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	15.71%	24.29%	48.57%	11.43%	100.00%
第二優先	提供希望の情報				
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計
必要	18.57%	15.71%	22.86%	21.43%	78.57%
基本必要	2.86%	5.71%	2.86%	10.00%	21.43%
原則不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	21.43%	21.43%	25.71%	31.43%	100.00%
第三優先	提供希望の情報				
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計
必要	20.00%	17.14%	7.14%	10.00%	54.29%
基本必要	11.43%	10.00%	7.14%	5.71%	34.29%
原則不要	1.43%	1.43%	1.43%	1.43%	5.71%
不要	1.43%	4.29%	0.00%	0.00%	5.71%
総計	34.29%	32.86%	15.71%	17.14%	100.00%

傾向

「就労や家計へのサポートに関する情報」「役所や年金など

公的手続きに関する情報」に関するニーズが大変高い。精神

障がい当事者の生活上の困難に対する不満の割合が大変高

いのは、前項での傾向が確かであった。それを踏まえ、精神

障がい当事者は、生活困窮や経済的不安を就労による

経済的安定または社会保障による公的扶助を受けつつ、そうし

た問題解決しながら通院などで治療をしたい傾向が有るよ

うに思われる。自立した生活に向けての生活再建と継続的

治療の両立が困難であるかをうかがえる傾向である。

○ 発達障がい

第一優先	提供希望の情報				
必要度合い	医療／福祉の利用に関する支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計
必要	13.46%	23.08%	30.77%	5.77%	73.08%
基本必要	9.62%	3.85%	9.62%	0.00%	23.08%
原則不要	1.92%	0.00%	0.00%	1.92%	3.85%
不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	25.00%	26.92%	40.38%	7.69%	100.00%
第二優先	提供希望の情報				
必要度合い	医療／福祉の利用に関する支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計
必要	13.46%	23.08%	15.38%	11.54%	63.46%
基本必要	3.85%	9.62%	11.54%	9.62%	34.62%
原則不要	0.00%	1.92%	0.00%	0.00%	1.92%
不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	17.31%	34.62%	26.92%	21.15%	100.00%
第三優先	提供希望の情報				
必要度合い	医療／福祉の利用に関する支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計
必要	11.54%	9.62%	1.92%	0.00%	23.08%
基本必要	9.62%	5.77%	7.69%	5.77%	28.85%
原則不要	5.77%	7.69%	0.00%	0.00%	13.46%
不要	19.23%	13.46%	1.92%	0.00%	34.62%

傾向

「就労や家計へのサポートに関する情報」に対するニ

ズが大変高い。ついで「生活での困りごとに関する福祉情報」

が高い。傾向として知的障がい当事者と精神障がい当事者

との傾向をミックスした傾向と思われる。発達障がいの

しょうがいとくせい み けいこう がっち おも
 障害特性から見ても、このような傾向は合致していると思われる

はったつしょう どうじしゃ しゅうろうきかい こんなん けいざいてき
 る。発達障がい当事者は就労機会の困難さなどから経済的

ふあんかか い かいけつ じょうほう ふそく
 不安抱えつつ、生きづらさを解決する情報が不足している

かのうせい おも
 可能性があると思われる。

○ なんびょう とくていしっかん
 難病・特定疾患

第一優先	提供希望の情報					
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計	
必要	33.33%	16.67%	22.22%	5.56%	77.78%	
基本必要	11.11%	0.00%	5.56%	0.00%	16.67%	
原則不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
不要	0.00%	0.00%	5.56%	0.00%	5.56%	
総計	44.44%	16.67%	33.33%	5.56%	100.00%	
第二優先	提供希望の情報					
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計	
必要	44.44%	5.56%	0.00%	27.78%	77.78%	
基本必要	5.56%	5.56%	0.00%	11.11%	22.22%	
原則不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
総計	50.00%	11.11%	0.00%	38.89%	100.00%	
第三優先	提供希望の情報					
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計	
必要	5.56%	44.44%	0.00%	11.11%	61.11%	
基本必要	0.00%	16.67%	11.11%	5.56%	33.33%	
原則不要	0.00%	0.00%	0.00%	5.56%	5.56%	
不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
総計	5.56%	61.11%	11.11%	22.22%	100.00%	

けいこう
 傾向

いりょう ふくし りょう かん しえんじょうほう たいへんたか
 「医療／福祉の利用に関わる支援情報」が大変高い。

せいかつじょう こんなん かだい かいけつ うえ こうてき きかん てつづ
 生活上の困難や課題を解決する上で公的機関での手続きに

よって、福祉サービスをうとるための情報に対するニーズ

たいへんたか けいこう おも ぜんこう なんびょう とくてい
 が大変高い傾向と思われる。また前項において難病・特定

しっかんとうじしゃ せいかつじょう こんなん たい ふまんど あ たいへんたか
疾患当事者の生活上の困難に対する不満度合いが大変高い。

ふ おのおの なんびょう しっかん とくせい がっち しえん
それも踏まえると、各々の難病・疾患の特性に合致した支援

じょうほう あき ふそく かのうせい
やサービスについての情報が明らかに不足している可能性

たか けいこう きんきゅう よう かのうせい たか
が高い傾向である。緊急を要する可能性が高い。

つういんちゅう ふめい
 通院中・不明

第一優先	提供希望の情報				
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計
必要	14.29%	28.57%	28.57%	14.29%	85.71%
基本必要	14.29%	0.00%	0.00%	0.00%	14.29%
原則不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	28.57%	28.57%	28.57%	14.29%	100.00%
第二優先	提供希望の情報				
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計
必要	14.29%	28.57%	14.29%	0.00%	57.14%
基本必要	14.29%	0.00%	14.29%	14.29%	42.86%
原則不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	28.57%	28.57%	28.57%	14.29%	100.00%
第三優先	提供希望の情報				
必要度合い	医療／福祉の利用に関わる支援情報	生活での困りごとに関する福祉情報	就労や家計へのサポートに関する情報	役所や年金など公的手続きに関する情報	総計
必要	14.29%	14.29%	0.00%	0.00%	28.57%
基本必要	0.00%	0.00%	42.86%	0.00%	42.86%
原則不要	14.29%	14.29%	0.00%	0.00%	28.57%
不要	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
総計	28.57%	28.57%	42.86%	0.00%	100.00%

けいこう
傾向

かいとう かた たいへんすく けいこう
アンケートとして回答された方が、大変少なく傾向をまと

めるのが困難こんなんであるとした上うえでまとめると「生活せいかつでの困りこまごとをかん関する福祉情報ふくしじょうほう」「就労しゅうろうや家計かけいへのサポートかんに関する情報じょうほう」がたか高く通院中つういんちゅうであること鑑かんがみると精神障せいしんしょうがい当事者とうじしゃ同様な困難どうようを抱かかえている可能性かのうせいがたか高く支援/扶助しえん ふじょうを受けることについて、潜在せんざいてき的に情報じょうほうが不足ふそくしている可能性かのうせいがある。

2-2 情報提供じょうほうていきょうへニーズ傾向けいこうへの評価ひょうか

障しょうがい種別しゅべつに傾向けいこうをまとめてそれを踏ふまえて、下記内容かきないようでまとめます。

生活せいかつじょう上の困難こんなんを多く抱おおえ、大変かか低い満足度たいへんひくまんぞくどを強しいられる障しょうがい種別しゅべつ「精神障せいしんしょうがい」「難病・特定疾患なんびょうとくていしっかん」の方々は、その困難こんなんさを解決かいけつするための札幌市さっぽろしからの情報提供じょうほうていきょうも社会的なケアも不足ふそくしている可能性かのうせいが非常にひじょうたか高いことが今回のアンケートの傾向けいこうでわかりました。特に「難病・特定疾患なんびょうとくていしっかん」当事者とうじしゃに関しては札幌市さっぽろしによる情報提供じょうほうていきょうが不足ふそくしており緊急きんきゅうを要よう

することが傾向として判明しました。それ以外では、全体を

とお通して「医療／福祉の利用に関わる支援情報」が札幌市によ

る情報提供のニーズが高水準である傾向がわかりました。

「精神障がい」「難病・特定疾患」をお持ちの方への札幌市

から情報保障（提供）が高い水準で不足している可能性を

指摘しつつ、生活上の困難を抱えてる状況に置かれている

のではないかと推測します。

☆アンケート結果全体を通しての結論☆

居住別／就業形態別／障がい種別の3つの観点で今回

実施したアンケートまとめました。居住別や就業形態別か

ら生活上の困難さについてあまり関係がないもしくは論じ

るには論拠が乏しいアンケート結果でした。

障がい種別から生活上の困難を考えることについては

その種類によって大きな差異がある結果でした。障がい種別

によっては札幌市からの情報提供が大変不足している

可能性が指摘できたかとおもいます。

また札幌市からの情報提供ニーズが大変高い障がい

種別である「難病・特定疾患」「精神障がい」の方々は生活上

の困難・不満を大変抱えている状況もわかったように考え
ます。

障がい特性上、どんな障がいを持っているかは個人そ

れぞれ事情や経緯があったものと思われま。しかし、たま

たま持った障がい種類によって大きく生活困難の度合いに

ついて格段の差異が生じている状況があるようです。その

状況とともにからめて札幌市から情報提供についても

同時に不足をしているのが現状のようです。

言い換えれば、障がい種別によって情報提供のされた方

に差異が生じている為、大きく将来に対する「生活の先行

き」や「人生の見通し」について格段の差が生じているよう

おも しょう しゅべつ しょう しゃ え
思われます。障がい種別によって障がい者が得られる

さっぽろし じょうほうていきょう おお かくさ かのうせい
札幌市からの情報提供には、大きな格差がある可能性が

たいへんたか かんが
大変高いと考えられます。

いじょう しょう
以上のことから私たちまちづくりサポーターは障がいの

かくしゅべつ たい びょうどう ぎょうせい すいじゅん み
各種別に対して、平等な行政サービス水準を満たしている

い かんが さっぽろし じょうほうほしょう
とは言えないと考えます。このことから札幌市の情報保障

ぎょうせい ていきょう ないよう さいていげん ど すいじゅんいじょう たつ
が行政から提供する内容として最低限度の水準以上に達し

い かんが
ているとは言えないと考えます。

だい き かんが
第8期まちづくりサポーターが考える
ひと きょうせいしゃかい ひつよう
「人にやさしい共生社会」にとって必要なこと

こんかい ちゅうしん じっし
今回のアンケートをインターネット中心に実施しまし

い と ひと きょうせいしゃかい じつげん
た。その意図として「人にやさしい共生社会」実現のため

さっぽろし じょうほうほしょう けつじょ かのうせい してき
の札幌市における情報保障が欠如している可能性を指摘で

ひと ただ じょうほう も あ
きました。どんな人も正しい情報を持ち合わせていないと

さき かんが ふあん こんなん じょうきょう と
先のこと考えられず不安になったり困難な状況が取り

かこ さき すす
囲まれて先に進めなくなるものです。

こんごさっぽろし しさく いっかん
そうしたことにたいして今後札幌市の施策の一環として

こ こ しょう じじょう がた じょうほうていきょう
個々の障がい事情にマッチしたプッシュ型の情報提供を

も さく かんが がた
模索してほしいと考えます。またそうしたプッシュ型の

じょうほうていきょう しかた しょう かた しょう かか
情報提供の仕方により障がいのない方も障がいに関わる

じょうほう ふ しえん がわ
情報に触れてもらうことで「支援する側」になることも

かのう
可能です。

しょう ひと ひと たが じょうほう きょうゆう
障がいある人もそうではない人も互いに情報を共有す

だいじ かんが しょう しゃ ひろ
ることが大事であると考えます。障がい者だけでなく広い

い み しゃかい ひと ささ あ きょうせい
意味でこの「社会」にいきる人すべてが支え合う「共生

しゃかい じょうほうほしょう だいじ しさく
社会」にとって「情報保障」がこれからの大事な施策の

いっかん のぞ
一環になることを望んでます。

おわりに

わたし だい き ねん
私 たち 第 8 期 まちづくり サポーター は、2021 年 から 3
ねんかん かつどう まい ねんかん なか わたしたち しょう しゃ
年 間 活 動 し て 参 り まし た。 そ の 3 年 間 の 中 で 私 達 障 が い 者
にと っ て 社 会 参 加 に お い て ど う い っ た こ と が 「バ リ ア フ リ ー」
さ ま た ぎ ろ ん ぎ ろ ん か さ な か
の 妨 げ に な っ て い る か 議 論 し て き まし た。 議 論 を 重 ね る 中 で
メ イ ン テ ー マ 「人 に や さ し い 共 生 社 会 を 目 指 し て」 に つ い て
ぎ ろ ん
議 論 し て ま い り まし た。

ぎ ろ ん え ら
そ う し た 議 論 の な か で まちづくり サポーター に 選 ば れ た
し ょ う しゃ さ ま ざ ま し さ く た い じ ゅ う ぶ ん り か い
メ ン バ ー も 障 が い 者 へ の 様 々 な 施 策 に 対 し て 十 分 な 理 解 が
お よ じ ゅ う き ょ う じ ぶ ん し ょ う
及 ん で い な い と い う 状 況 が わ か っ た こ と で し た。 自 分 の 障
が い に つ い て は 詳 し く て も ほ か の 障 が い に 対 し て 無 理 解 ・
む か ん し ん お も どう よ う さ っ ぽ ろ し み ん ひ と り
無 関 心 で あ っ て は な ら な い と い い ます。 同 様 に 札 幌 市 民 一 人
ひ と り が 困 難 な 状 況 に あ る 人 や 障 が い 者 へ の 無 理 解 ・
む か ん し ん お も
無 関 心 も あ っ て な ら な い と い い ます。

き ょ う せ い し ゃ か い じ つ げ ん む か ん し ん り か い お よ
共 生 社 会 を 実 現 す る た め に は そ う し た 無 関 心 や 理 解 が 及
ば な い こ と を 解 消 し な け れ ば な ら な い と 考 え ます。 そ れ に
か い し ょ う か ん が
は 「正 確」 で 個 々 人 に あ っ た 「適 確」 な 情 報 提 供 が な け れ ば、
せ い か く こ こ じ ん て き か く じ ゅ う ほう て い き ょ う
は 「正 確」 で 個 々 人 に あ っ た 「適 確」 な 情 報 提 供 が な け れ ば、

じつげん え こんかい なが ぎろん とお じっかん
実現し得ないということを経回の長い議論を通して実感
しました。

わたしたちはそうしたけいい
経緯よりアンケート調査を
じょうほう けつじょ せいかつじょう こんなん おお かんけい けつろん
情報の欠如と生活上の困難が大きく関係づけられた結論を
みちび
導きだしました。

こんご だい き かんが ぎろん
今後「まちづくりサポーター第8期」メンバーが考
え議論
しまとめたこのほうこくしょ さっぽろし ひと きょうせい
しまとめたこの報告書が札幌市における「人にやさしい共生
しゃかい じつげん いちじょ ところ ねが
社会」実現の一助になるよう心より願ってやみません。

ぎろん ささ
ここまで議論を支えてくださった「まちづくりサポーター
だい き ぜんいん じ む きょく さっぽろし ふか
第8期」メンバー全員と事務局してくださった札幌市への深
かんしゃ い たずさ ほうこく
い感謝の意を携え報告といたします。

いじょう
以上

だい き さっぽろししょう しゃ ふくだいひょう
第8期札幌市障がい者によるまちづくりサポーター副代表

おおえ たつお
大江 達夫

だい きしょう しゃ めいぼ
第8期障がい者によるまちづくりサポーター名簿

しめい 氏名	しょう しゅべつ 障がい種別
いわがき さとみ 岩垣 智美	なんびょう 難病
○ おおえ たつお 大江 達夫	せいしんしょう 精神障がい
かにわ よしひと 鹿庭 義仁	しんたいしょう したい 身体障がい（肢体）
かねはら ひろゆき 金原 浩之	しんたいしょう ちょうかく 身体障がい（聴覚）
きむら ひろあき 木村 裕明	しんたいしょう ないぶ 身体障がい（内部）
こばやし むつお 小林 睦男	しんたいしょう したい なんびょう 身体障がい（肢体）・難病
○ ひろしま まさみ 広島 雅美	はったつしょう 発達障がい
ほり ふうか 堀 楓香	しんたいしょう したい 身体障がい（肢体）
まつだ やすこ 松田 靖子	ちてきしょう 知的障がい
まつもと さゆり 松本 小百合	しんたいしょう したい 身体障がい（肢体）
◎ やまだ ひでお 山田 英雄	しんたいしょう しかく 身体障がい（視覚）

おんじゆん
50音順

だいひょう ふくだいひょう あらわ
 ◎は代表、○は副代表をそれぞれ表します。

にんき れいわ ねん がつ にち れいわ ねん がつ にち
 任期：令和3年6月1日から令和6年5月31日